

先端研究拠点事業—国際戦略型—  
「ソフトマターと情報に関する非平衡ダイナミクス」  
セミナー・シンポジウム 派遣報告書

年 月 日

氏名(ふりがな)	多羅間充輔 (たらまみつすけ)
所属機関・部局・専攻内の所属分野	京都大学理学研究科物理学第1教室
身分・学年 (学生の場合は指導教員名)	D2 (佐々真一)
メールアドレス	<a href="mailto:tarama@scphys.kyoto-u.ac.jp">tarama@scphys.kyoto-u.ac.jp</a>
電話番号、FAX	075-753-3763

セミナー・シンポジウム名	Engineering of chemical complexity
場所 (国名・都市)	ドイツ・Rostock-Warnemuende
派遣期間	2013/06/09 – 2013/06/13
セミナー等の日程	2013/06/10 – 2013/06/13
URL	<a href="http://bcscs.de/CONFERENCES/CONFERENCE-2013/index.l">http://bcscs.de/CONFERENCES/CONFERENCE-2013/index.l</a>

セミナー・シンポジウムに参加することで得られた知見・議論の成果を500字程度で記述してください。スペース不足の場合は、用紙を追加してください。感想などもあれば記載してください。

セミナー派遣プログラムの一環として、ドイツ、ロストックのヴァルネミュンデというバルト海に面した小さな町であった国際会議、7th international conference “Engineering of chemical complexity”に参加させて頂きましたので、報告いたします。今回参加した会議は物理、化学、生物学、さらには数学の研究者も交えた非線形、非平衡科学の会議でした。そのため非常に幅広いトピックスについての研究発表があり、自分自身が普段行っている研究分野に近い話題以外にも、普段はあまり耳にしないような研究の話も聞くことが出来、とても良い刺激になりました。また、このような様々な分野の方が参加されている会議の他の醍醐味としては、よく会議で一緒にいる方々以外の、「分野の異なる」研究者からもコメントが得られたりすることがあります。私は今回の発表では、例えば、質疑応答で数学の研究者にコメントを頂きました。ただ、そのコメントに対してはうまく答えることができなかったので、まだまだ発表のレベルが低いとだと反省し、勉強になりました。最後に、今回の会議への参加をサポートしていただきこのような貴重な体験をさせていただいた、本プログラムに感謝いたします。